

科目名称	基礎看護技術 序(看護技術とは何か 学内実習オリエンテーション) A.コミュニケーション	学年学期	単位数	時間数
		1 年前期		14
担当教員	田中 美恵子 川崎 由希	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

看護技術とはなにか、概観しこれから修得する看護技術の学習についてイメージできるようにする。
すべての看護技術に共通して必要なコミュニケーションについて演習を行いながら実践的に学ぶ。

【2】学習目標

1. 基礎看護技術定義、本の構成および掲載されている看護技術の種類が分かる。
2. コミュニケーションの特徴と看護におけるコミュニケーションの重要性を理解できる。
3. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解できる。
4. 適切なメッセージの伝え方を理解できる。
5. コミュニケーションの基本的な方法について実践できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☒ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	討議法	講義
2	序 看護技術とは何か コミュニケーション	講義
3	適切なコミュニケーション	講義
4	効果的なコミュニケーション	講義・演習
5	コミュニケーションの実際	講義
6	相談と学習支援	講義
7	学内実習オリエンテーション	

【5】評価方法

1. 筆記試験

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

参考書は指定しない。

【8】受講生へのメッセージ

科目名称	基礎看護技術 B.安全・安楽 C.姿勢と動作 D.感染予防	学年学期	単位数	時間数
		1 年前期		22
担当教員	田中 美恵子 後藤 沙織 井上 智子	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

すべての基礎看護技術に必要な共通の技術である安全・安楽、姿勢と動作、感染予防について学ぶ。

【2】学習目標

1. 環境に存在する安全・安楽を阻害する因子について説明できる。
2. 安全・安楽を守る援助技術について説明できる。
3. 手指衛生の必要性を理解し、流水と抗菌性石鹸を用いた手洗いが習得できる。
4. 正確な無菌操作技術を習得できる。
5. 医療安全の考え方を説明できる。
6. 基本的な体位の種類とその特徴について理解できる。
7. 看護におけるボディメカニクスの意義と原則について理解できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	安全・安楽とは 安全・安楽を阻害する因子	講義
2	安楽を促進する技術	講義
3	安全を守る技術	講義
4	医療安全とリスクマネジメント	講義
5	感染予防の基礎知識	講義
6	手指衛生 個人防護具について	講義
7	感染予防の実際 1) 手指衛生 2) エプロン・マスク・手袋の着脱	学内実習
8	無菌操作 リネン類、廃棄物の取り扱い 隔離	講義
9	感染予防の実際 無菌操作	学内実習
10	姿勢と動作	講義
11	筆記試験 まとめ	

【5】評価方法

1. 筆記試験、レポートの提出状況など

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年
 雑賀美智子 他著「新看護学7 基礎看護[1] 看護概論」医学書院 2020 年

【7】参考書

竹尾 恵子 監修「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年
 角濱春美・梶谷佳子 編著「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」メヂカルフレンド社 2017 年

【8】受講生へのメッセージ

教科書の該当ページを読んで講義に臨みましょう。

科目名称	基礎看護技術 E.身体の観察と測定	学年学期	単位数	時間数
		1 年前・後期		28
担当教員	南澤 祐子	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

身体の観察と測定を実施するための必要な知識を身につけ、正確にバイタルサインの測定と身体各部の測定の技術を習得する。

【2】学習目標

1. 観察の意義・目的と観察方法の種類について理解できる。
2. バイタルサインの各測定に必要な基礎知識を理解することができる。
(バイタルサインの各定義・メカニズム・測定方法・正常と異常・正しい測定方法 など)
3. バイタルサインの正しい測定方法を習得することができる。
4. 身体各部の測定の目的と測定方法を理解し、正しい身体各部の測定方法を習得することができる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	身体の観察の方法	講義
2	バイタルサインとは 意識	講義
3	呼吸 1 (呼吸のメカニズム 呼吸の観察 呼吸の測定方法)	講義・演習
4	呼吸 2 (呼吸音の聴取)	学内実習
5	脈拍	講義
6	血圧 1 (血圧のメカニズム 血圧の観察 血圧の測定方法①触診法)	講義・演習
7	血圧 2 (血圧の測定方法②聴診法)	講義・演習
8	体温	講義
9	バイタルサイン測定の実際 1 (体温・脈拍・呼吸測定の実際)	学内実習
10	バイタルサイン測定の実際 2 (血圧測定の実際・実技テストオリエンテーション)	学内実習
11		
12	実技試験	実技試験
13	身体の測定とその実際	講義・演習
14	筆記試験 まとめ	

【5】評価方法

1. 筆記試験、実技試験、レポートの提出状況などで総合的に評価する。

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020

【7】参考書

竹尾 恵子 監修「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年
 医療情報科学研究所 編「看護技術がみえる vol.3 臨床看護技術」メディックメディア H25 年
 角濱春美・梶谷佳子 編著「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」メジカルフレンド社 2017 年

【8】受講生へのメッセージ

事前学習として、教科書の該当ページを読んで授業に臨みましょう。

科目名称	基礎看護技術 F.情報収集と看護過程	学年学期	単位数	時間数
		1 年前・後期		14
担当教員	太田 美枝	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

看護実践の基本的な思考過程をふまえた看護過程の考え方を事例を用いながら学ぶ。

【2】学習目標

1. 情報の収集について、看護過程をあわせて一連の流れとして理解することができる。
2. 看護過程は思考過程でもあり看護の事象は常にこの過程で考えるものであると理解することができる。
3. 看護過程の構成要素はアセスメント・看護問題の明確化(看護診断)・計画立案・実施・評価の5段階からなると理解することができる。
4. 看護記録の目的と意義、その種類、記録上の注意、記録の保存と管理について理解することができる。
5. 報告は医療チームのメンバーや患者・家族などが必要な情報を共有し、より良い医療・看護ケアの提供のために欠かせないものであると理解することができる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☒ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	情報の収集	講義
2	看護過程	講義・演習・DVD
3	看護過程とは 看護過程の構成要素の特徴 アセスメント過程	
4	看護上の問題の明確化と看護診断	
5	計画立案・実施・評価の過程	
6	記録・報告	講義
7		

【5】評価方法

1. 筆記試験

【6】教科書

水戸優子他 著「新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

森 美智子 他編著「看護学入門 6 基礎看護 I 基礎看護技術」メディカルフレンド社 2020 年

【8】受講生へのメッセージ

科目名称	基礎看護技術 A.日常生活行動の援助 B.環境調整の援助	学年学期	単位数	時間数
		1 学年前期		22
担当教員	井上 智子	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

患者の生活の場である病室を中心とした環境整備の重要性について学び、患者が快適な入院生活を送ることができるための基本的なベッドメイキングの技術を習得する。

【2】学習目標

1. 病床環境に対する看護の役割について理解できる。
2. 患者にとって快適な生活環境について理解できる。
3. ベッドメイキングの方法を習得できる。
4. 臥床患者のシーツ交換の方法を習得できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	日常生活行動の援助 日常生活行動援助の意義と留意点 環境調整の援助 1(入院患者の生活環境・環境調整の目的)	講義
2	環境調整の援助 2(環境とその調整・療養環境の調整)	講義 グループワーク
3	環境調整の援助 3 ベッドメイキング	講義
4	ベッドメイキング 1・2 (リネンのたたみ方、下シーツ・防水シーツの敷き方)	学内実習
5		
6	ベッドメイキング 3・4 (上シーツ・毛布のかけ方、スプレッドのかけ方、枕カバーのかけ方、クローズドベッドからオープンベッドへ)	学内実習
7		
8	ベッドメイキング 5(下シーツの敷き方～クローズドベッド完成まで)	学内実習
9	環境調整の援助 4	講義
10	ベッドメイキング実技テスト	実技試験
11	リネン交換	学内実習

【5】評価方法

1. 筆記試験(80%)、実技試験(10%)、学内実習における課題提出状況、身だしなみ(10%)などで総合的に評価する。

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

竹尾 恵子 監修「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年

<資料>

フローレンス・ナイチンゲール著 小玉香津子他訳「看護覚え書」日本看護協会出版会 2019 年

森美智子 他編著「看護学入門 6 基礎看護 I」メデカルフレンド社 2020 年

【8】受講生へのメッセージ

レポートは提出期限厳守です。

忘れた場合、原則、その日の放課後に完成させ提出しましょう。ただし、評価時に減点となります。

*ベッドメイキングの学内実習後から実技試験までの間、看護実習室で自主練習できます。

追って使用可能日時をお知らせします。

科目名称	基礎看護技術 C.活動の援助 D.休息の援助	学年学期	単位数	時間数
		1 学年前期		10
担当教員	川崎 由希	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

人間の健康における、活動と休息の重要性を理解し、適切な活動、休息への援助ができるための知識を学び、基本的な技術を習得する。

【2】学習目標

1. 活動・休息が患者に与える影響について理解できる。
2. 患者の安全・安楽を考慮した体位の調整技術を習得できる。
3. 患者の安全・安楽を考慮した移動・移送の援助技術を習得できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	活動の援助 (活動に関する基礎知識 援助の目的・留意点 安楽な体位と保持)	講義
2	活動の援助 2 (体位変換・移動の援助)	講義
3	休息の援助 (休息に関する基礎知識 睡眠・休息への援助)	講義
4	活動の援助 3 (体位変換の援助 安楽な体位の保持)	学内実習
5	活動の援助 4 (車椅子による移動の援助 ストレッチャーによる移動の援助)	学内実習

【5】評価方法

1. 筆記試験
2. 学内実習における課題提出状況を総合的に評価する。

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

竹尾 恵子 監修「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年

【8】受講生へのメッセージ

レポートは提出期限厳守です。
 忘れた場合、原則、その日の放課後に完成させ提出しましょう。ただし、評価時に減点となります。
 基礎看護技術「姿勢と動作」の内容を復習し、授業に臨みましょう。

科目名称	基礎看護技術 E.衣生活の援助 F.清潔の援助	学年学期	単位数	時間数
		1 年前・後期		30
担当教員	井上 智子	授業に関わる 実務経験	■ 有 (井上 智子) □ 無	

【1】授業概要

身体の清潔の意義について理解し、清潔の援助に必要な基礎的知識を学び、清拭、洗髪、口腔ケアの技術を習得する。

【2】学習目標

1. 清潔の援助に関する基礎知識を身につける。
2. 全身、頭皮・頭髪、口腔の清潔の意義と目的がわかる。
3. 安全・安楽な全身、頭皮・頭髪、口腔の清潔の援助技術を習得できる。
4. 看護師役・患者役を通して看護師の役割と思いやりのある態度を習得できる。
5. 安全、安楽な寝衣交換の援助技術を習得できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	清潔の援助 1 清潔の援助とその目的 清潔の援助に関する基礎知識	講義
2	清潔の援助 2 全身の清潔(入浴・シャワー浴・手浴・足浴)	講義・DVD
3	清潔の援助 3 全身の清潔(全身清拭と熱布清拭・陰部洗浄)	講義・DVD
4	清潔の援助 4 頭皮・頭髪の清潔	講義・DVD
5	清潔の援助 5 洗髪車・洗髪台・ケリーパッドを用いた洗髪の準備 手浴、足浴、全身清拭の準備	学内実習 学生によるデモスト
6	清潔の援助 6 口腔の清潔 口腔ケアの意義と目的・口腔ケア・義歯の清掃と管理	講義 学内実習
7	清潔の援助 7・8 全身清拭の実際 湯温を用いた全身清拭の実施	学内実習
8		
9	清潔の援助 9・10 洗髪の実際 ケリーパッドを用いた洗髪の実施	学内実習
10		
11	総合演習	学内実習
12		
13	衣生活の援助 1 衣服の機能 衣生活の援助の目的と看護師の役割 援助の基礎知識	講義
14	衣生活の援助 2 和式寝衣の交換	学内実習
15	筆記試験 まとめ	

【5】評価方法

1. 筆記試験

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

竹尾 恵子 監修 「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年
角濱春美・梶谷佳子 編著「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」メヂカルフレンド社 2017 年

【8】受講生へのメッセージ

授業の前には該当ページを読んでから授業に臨みましょう。
看護師の知識不足や確認不足が患者の安全・安楽を阻害することにつながるため、事前学習を期日までに提出し学内実習に臨みましょう。

科目名称	基礎看護技術 G.食事と食生活の援助 H.排泄の援助	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期		14
担当教員	後藤 沙織	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

健康な生活と食事、排泄の関係について理解し、健康的な食事、排泄の重要性について理解を深める。そして基本的な食事、排泄の援助技術を習得する。

【2】学習目標

1. 健康生活における食事の意義を理解できる。
2. 基本的な食生活の援助方法について理解できる。
3. 健康的な生活における排泄の意義を理解できる。
4. 排泄のメカニズムと正常・異常について理解できる。
5. 排泄における看護の役割と援助方法について理解できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	食事と食生活の援助 1 食事の意義と目的 食事に関する基礎知識と栄養状態の評価	講義
2	食事と食生活の援助 2 食事援助の援助の視点 食事介助 症状・障害に応じた食事援助	講義
3	排泄の援助 1 排泄の意義とその目的排泄の援助に関する基礎知識 排泄の援助の基本	講義
4	排泄の援助 2 排泄方法の選択 便器・尿器を用いた排泄の援助 ポータブルトイレでの排泄援助	講義
5	排泄の援助 3 おむつによる排泄の援助 摘便 ストーマケア	講義
6	食事と食生活の援助 4 ひとりでは食べられない患者への安全・安楽に配慮した食事介助の実践	学内実習
7	排泄の援助 4 ベッド上の排泄が必要な患者に対する、安全・安楽に配慮した排泄の援助の実践	学内実習

【5】評価方法

1. 筆記試験
2. 学内実習における課題提出状況を総合的に評価する。

【6】教科書

水戸優子 他著「新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術」医学書院 2020 年

【7】参考書

竹尾 恵子 監修「看護技術プラクティス 第4版」学研 2019 年
 門田佳子 他著「新看護学 3 専門基礎[3] 薬物と看護・食生活と栄養」医学書院 2020 年
 村中洋子 他編著「学ぶ・活かす・共有する看護ケアの根拠と技術」医歯薬出版 2013 年
 深井喜代子 編著「基礎看護技術ビジュアルブック手順と根拠がよくわかる」照林社 2010 年

【8】受講生へのメッセージ

レポートは提出期限厳守です。
 忘れた場合、原則、その日の放課後に完成させ提出しましょう。ただし、評価時に減点となります。

科目名称	基礎看護技術 F. 電法 G. 吸入 H. 吸引 I. 褥瘡の予防 J. 包帯法	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期		14
担当教員	南澤 祐子 田中 美恵子	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

診療の補助における看護師の役割を理解したうえで、安全な電法、吸入、吸引、褥瘡予防、包帯法の技術について学ぶ。

【2】学習目標

1. 安全で安楽な電法の援助を実施するための基礎的知識を身につける。
4. 吸入の意義を理解し、安全で効果的な吸入の援助方法を習得する。(薬液噴霧・酸素吸入)
3. 吸引の意義を理解し、安全で効果的な吸引の援助方法を習得する。(一時的吸引・持続的吸引)
4. 褥瘡発生のメカニズムと予防の方法について説明できる。
5. 包帯法の目的を理解し、基本的な包帯法が実施できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	電法の基礎知識	講義
2	吸入の種類の特徴と各方法の目的・適応	講義
3	吸引の種類と各方法の目的・適応・留意点	講義
4	吸入と吸引の実際 1	学内演習
5	吸入と吸引の実際 2	学内演習
6	褥瘡予防の基礎知識	講義
7	包帯法の基礎知識と包帯法の実践	講義 学内実習

【5】評価方法

1. 筆記試験、レポート等

【6】教科書

水戸優子他著 新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術 医学書院 2020

【7】参考書

本庄恵子・吉田みつ子監修 写真でわかる臨床看護技術①アドバンス インターメディカ 2016
 任和子他編 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 2017
 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第4版 学研 2019

【8】受講生へのメッセージ

事前学習として、教科書の該当ページを読んでから授業に臨みましょう。
 レポートは提出期限厳守です。

科目名称	基礎看護技術 K.与薬 L.検査における看護 M.洗浄	学年学期	単位数	時間数
		2 学年前・後期		28
担当教員	川崎 由希 後藤 沙織	授業に関わる 実務経験	☒ 有 (看護師) ☐ 無	

【1】授業概要

診療の補助における看護師の役割を理解したうえで、安全な与薬の技術、検査時の看護、洗浄の技術について学ぶ。

【2】学習目標

1. 与薬の目的と看護師の役割を理解する。
2. 安全で正確な与薬の援助を実施するための基礎知識を理解する。
3. 経口与薬、座薬挿入、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射、点滴静脈内注射の技術を習得する。
4. 輸血の基礎知識を理解する。
5. 検査の目的と方法を理解し、援助を行うための基礎知識を習得する。
6. 洗浄の目的と種類、援助方法について理解できる。

【3】ディプロマポリシーとの関連性

- ☒ 1. 生活者としての人間の理解
- ☒ 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- ☒ 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- ☒ 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- ☐ 5. 多職種との連携・協働
- ☐ 6. 地域医療の理解と生活の支援
- ☒ 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	与薬の目的と看護師の役割と援助時の基礎知識	講義
2	経口与薬と注射法以外の与薬の援助方法	講義
3	注射法による与薬の基礎知識	講義
4	注射法による与薬の援助技術 1	講義
5	注射法による与薬の援助技術 2	講義
6	輸血	講義
7	皮下・筋肉内注射の技術	学内実習
8	皮下・筋肉内注射の準備・実施・後片付けの実際	
9	静脈内・点滴注射の技術	学内演習
10	静脈内・点滴注射の準備・実施・後片付けの実際	
11	検査の目的と方法 検体の取り扱い	講義
12	画像診断のための各種検査方法	講義
13	洗浄の基礎知識	講義
14	筆記試験 まとめ	

【5】評価方法

1. 筆記試験、レポート等

【6】教科書

水戸優子 他著 新看護学 7 基礎看護[2] 基礎看護技術 医学書院 2019

【7】参考書

本庄恵子・吉田みつ子 監修 「写真でわかる臨床看護技術①アドバンス」 インターメディカ 2016 年
 角濱春美・梶谷佳子 編著 「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」 メジカルフレンド社 2017 年
 竹尾恵子監修 看護技術プラクティス 第4版 学研 2019 他

【8】受講生へのメッセージ

事前学習として、教科書の該当ページを読んでから授業に臨みましょう。

授業後は復習をしておきましょう。

検査における看護は疾病の成り立ち(臨床検査)の授業と重複する内容もあるため、関連させて復習しておきましょう。

レポートは提出期限厳守です。